

第1回山口県産業技術振興奨励賞

山口県知事賞

株式会社ニシエフ

住 所 下関市

業 種 F P R 船舶・救命艇・搭載艇・成形品の製造

代 表 者 代表取締役社長 ほりい あつし
堀井 淳

代表者年齢 57歳



山口県知事特別賞

さいとう たかし
齊藤 俊

所 属・職 国立大学法人山口大学大学院医学系研究科教授

年 齢 52歳

またけ あきひろ
眞竹 昭宏

所 属・職 公立大学法人山口県立大学看護栄養学部教授

年 齢 46歳



受賞理由

「海面突入時の衝撃を低減する自由降下式救命艇の開発」

国際条約(SOLAS 条約)の改正に伴い、2006年7月以降に起工されるバルクキャリアへの自由降下式救命艇の搭載が義務化されたことを受け、バルクキャリア等大型船泊の緊急避難時に30mの高さから安全に降下できる国産初の自由降下式救命艇を開発した。

開発にあたり、各大学及びやまぐち産業振興財団・山口県産業技術センター等による支援チームを形成し、海面突入時の衝撃を低減する船型や安全性の高い衝撃緩和座席の開発を行った。

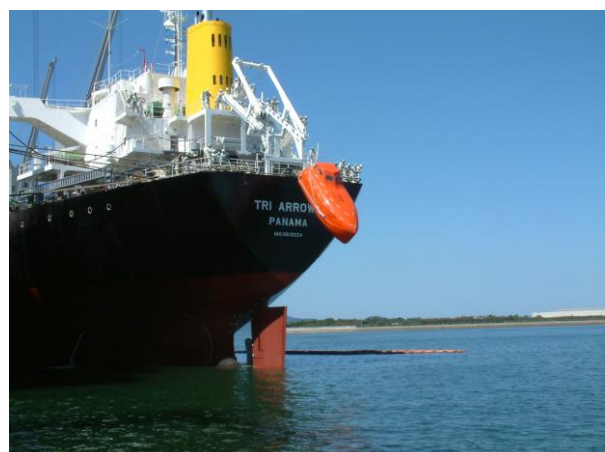
特に、衝撃緩和座席の開発においては、山口県産業技術センターが技術支援を行うとともに、斉藤教授は振動工学的観点から座席構造のコンピュータ解析、乗員が受ける衝撃の解析、及び座席に組み込む緩衝材の振動評価について、眞竹教授は人間工学・生体工学的観点から乗員が衝撃を受けた時の反射的な保身行動を考慮した手摺、頭部を保護するヘッドレスト、及び個人差に対応した背もたれ形状について技術的監修を行うなど産学公連携による取組を行った。

こうして開発された自由降下式救命艇は、国土交通省の型式承認最終試験において30mの高さから安全に降下できることが確認されたことから、2008年秋に国土交通省による型式承認を取得し、本格的な生産に着手した。

2009年9月に第1号艇を納入し、同年12月には中国国際船舶用工業展示会(上海)へ出展するなど、更なる受注拡大に努めているところである。



自由降下式救命艇



第1号艇 (2009年9月納入)